

立命館大学環太平洋文明研究センター第12回研究会

2017年1月19日(木)18:00—19:30

立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館第2会議室

古代甘味料あまつらの復元

神松幸弘

(立命館グローバル・イノベーション研究機構専門研究員：地理学・生態学)



古代日本で使用された甘味料は、麦芽糖(飴)と蜂蜜の他、甘葛煎(あまづらせん)という樹液を煮詰めた蜜が主でした。しかし、あまつらは砂糖の普及とともに消滅し、近世にはすでに幻となっていたようです。古典籍に残された情報と食物栄養分析から、あまつらを復元し、現代の和食・和菓子への利用、栄養学的観点からの医療、健康への応用、さらに第6次産業化など、食文化から栄養化学、イノベーションの創造をめざす学際プロジェクトのねらいと展望についてご紹介いたします。

立命館大学環太平洋文明研究センターは「環境と文明のあり方を根本から問い直し、環太平洋地域の災害と文明の興亡を解明する」ことを目的としてつくられた人類学、環境考古学、地理学、考古学などの研究者からなる研究組織です。定例研究会には、学生、院生、教職員、どなたでもご自由に参加できます。今後、各分野の研究者が持ち回りで発表します。どうぞふるってご参加ください。

お問い合わせ先：環太平洋文明研究センター事務局 075-466-3335

HP：<http://www.ritsumei.ac.jp/research/rcppc/>